

9/30 (日) 菊池市青年団がボランティア清掃で地域に貢献

菊池市青年団（松岡明彦団長）の団員たちがボランティアによる清掃活動を行い、菊池市の美化に貢献しました。約60人の青年団員が、菊池・七城・旭志・泗水の各支部ごとに集まり、それぞれの場所で空き缶や空きビン、燃えるゴミなどの回収作業を行いました。

この取り組みは、菊池市の若者たちが自分たちの住む地域の美化清掃をお手伝いすることで、少しでも社会に貢献したいとの思いから自主的に行われている活動で、昨年度から実施されています。

菊池市青年団は平成17年3月の市町村合併を受け、同年9月に旧菊池市・七城町・旭志村・泗水町の青年団が合併し誕生しました。現在、約200人の団員が活躍しています。



道の駅旭志前でゴミ袋を片手に作業する青年団員たち

10/1 (月) 旭志むつみ会が旭志総合支所を清掃



旭志総合支所前の清掃作業をするメンバー

むつみ会旭志支部（中尾ヨシコ支部長）のメンバー38人が、旭志総合支所内の清掃活動をボランティアで行いました。

これは旧旭志村時代から長年行われているもので、メンバーたちはそれぞれに持参した用具で、花壇の除草や刈り払い機での草刈りを行いました。10月とは思えない暑い陽射しの中、若い者に負けない巧みさと体力で、作業場所はみるみるうちにきれいになりました。

中尾支部長は「職員の皆さんがきれいな職場環境の中で気持ちよく仕事をしていただければうれしいです」と話されました。

同総合支所では、毎月1日を清掃の日として、全職員で清掃作業を行っているものの、特に夏場の雑草繁茂期には庁舎敷地も広く、職員の手では足りないところもあり、このボランティア清掃で施設内がとてもきれいになりました。作業、大変お疲れ様でした。

10/5 (金)

菊池北小の児童がお年寄りたちと交流

菊池北小学校（倉原久義校長）の全校児童が、地元のお年寄りたちと学年ごとに昔あそびや竹馬遊びなどを通して交流しました。同校で毎年10月に行われている「学校にきてよの日」の取り組みで、学校を地域に開く場とし、交流を通してお年寄りへの敬愛の気持ちを育て、地域のお年寄りとの交流を日常化することを目的に総合的な学習の時間を使って行われました。

その中のひとつ、4年生は菊池市から寄贈された「菊池ふるさとかるた」を使って交流しました。4年生児童51人と遊蛇口老人会メンバー18人、菊池市青少年育成市民会議メンバー3人とが10組に分かれて札を囲み、担任の先生が「一族（いちぞく）の文教ささえた鳳儀山（ほうぎざん） 聖護寺（しょうごじ）」などと札を読み上げるたびに、元気な「ハイ」の声と笑い声が体育館に響いていました。

参加したお年寄りたちは「本気でしているけどなかなか取れません。子どもたちとこうして触れ合うのはいいことですね」と、児童たちは「お年寄りたちと一緒にできたし、昔のことも色々勉強できたので楽しかったです」と話してくれました。



かるたを使って交流する児童とお年寄りたち

9/16 (日) 河原小学校で運動会

河原小学校（高岡伸行校長）の運動会が同校グラウンドであり、全校児童58人と地元住民、地元消防団員が参加しました。

学校と地区の運動会が合同で行われているもので今回が6回目。開会式では高岡校長が「これまでの練習の成果を発揮して、怪我のないよう気をつけて頑張ってください」とあいさつ。児童会5人の掛け声で「大好き 河原 みんなの心と力を合わせてがんばろう！」と全員で元気よく大会スローガンを読み上げました。

参加者たちは赤と白に分かれて競技に挑み、児童たちによる徒走「まうごつ走るばい」や、地区住民による技巧「二人三脚」、消防団員によるリレー「緊急出動」などが行われました。一所懸命に走る児童の姿や勢いあまって転倒する大人の姿に、会場からは歓声と共に温かい拍手が送られていました。

また、七城小（5月開催）を除く市内の12小学校でも、同時期にそれぞれ運動会がありました。



徒競走で、元気よくゴールする児童たち

9/28 (金) 菊之池保育園児がクレーンを使った「人文字」に挑戦

菊之池保育園の全園児78人が「人文字」に挑戦しました。9月30日の「クレーンの日」を前に、菊池市野間口にある（株）カジワラ（梶原和行代表取締役社長）が近くの同園に提案して実現したもので、グラウンドの決められた場所に園児たちが座り、ひらがなで「きくのいけ」の文字が作られました。

撮影は、建築・土木の現場で活躍している12トンのクレーン車1台が、地上約18メートルまでゴンドラを吊り上げて行われました。園児たちは、頭の上から聞こえる「ハイチース」の声に少し戸惑いながらも、列を乱さないように空を見上げていました。また、撮影後にはクレーン車が開放され、地上での記念撮影も楽しみました。

オペレーターとして参加した梶原健次郎専務は「これまでクレーンの日には社内での研修会などを行ってききましたが、今回初めてこのような対外的な活動を企画しました。市内の幼・保育園、小・中学校などで要請があれば、調整して同じような取り組みを行っていきたいと思っています」と話されました。



地上約18メートルから撮影された「きくのいけ」の人文字

9/29 (土) 平成19年度菊池市金婚夫婦表彰式



中尾清範さん・貞子さん夫妻による「旦那様から奥様への感謝の言葉」

菊池市金婚夫婦表彰式が、熊本日日新聞社の「第49回金婚夫婦表彰」と併せて、菊池市文化会館で開催され、今年は昭和32年に結婚された178組の夫婦がめでたく金婚式を迎えられました。

式典では、金婚夫婦を代表して菊池の犬塚隆昭さん・芙美子さん夫妻が表彰状と記念品を授与され、旭志の稲葉五十三さん・カズミさん夫婦が代表謝辞を述べられました。

その後、50年間の永きに亘り連れ添ってきたお互いへの感謝の気持ちを込めて、旭志の中尾清範さん・貞子さん夫妻と泗水の岩下俊一さん・満州子さん夫妻が「旦那様から奥様への感謝の言葉」を伝えられ、菊池の犬塚隆昭さん・芙美子さん夫妻と七城の緒方恵次さん・寛子さん夫妻が「奥様から旦那様への感謝の言葉」を伝えられました。

アトラクションでは、旭志の中尾みささんを代表とするパーSTEMDJカの皆さんによる、懐かしく心温まる演奏があり、参加者は楽しいひと時を過ごしました。